

# 外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/07/02

## 引き続き欧州メインの相場

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	米追加緩和への期待の強弱が鍵に 予想レンジ: 77.00 ~ 82.50 円	2 - 3
<a href="#">カナダ/円</a>	➡	リスク・オン継続か 予想レンジ: 75.50 ~ 82.00 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



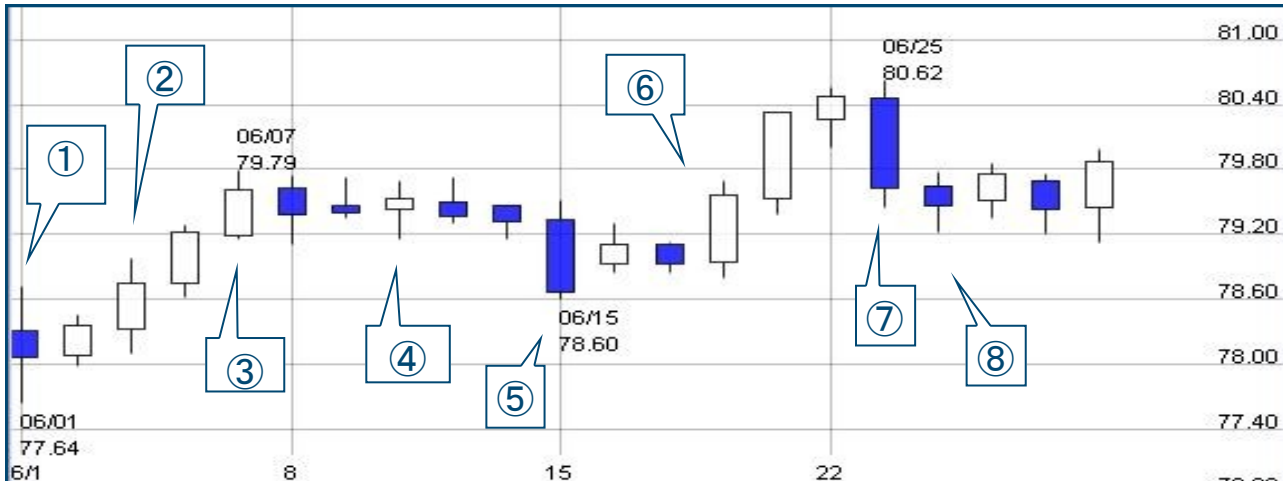
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD/JPY

## ドル/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.30円	80.62円	77.64円	79.87円



①	1日、米5月雇用統計は失業率が8.2%、非農業部門雇用者数(NFP)が6.9万人増と、いずれも市場予想(8.1%、15.0万人増)より弱い結果となった。さらに、NFPについては前月分も下方修正されたことから、発表直後は77.64円までドル/円は急落。しかし、一部で「日銀や米連邦準備制度理事会(FRB)からレートチェックが入った」との噂や、政府・日銀による円売り介入に対する警戒感を背景に反発するなど、乱高下した。
②	5日、安住財務相がG7電話会議後に「株安・円高が日本経済にダメージになっていると伝えた」「『過度な為替変動は悪影響があり、緊密に協力』との事項を確認、異論はなかった」などと発言すると、ドル/円は反発。米5月ISM非製造業景況指数は53.7と予想(53.5)を上回ると、78.97円まで上値を伸ばした。
③	7日、クロス円の上昇を受けて79.79円まで連れ高したが上値は重く、その後はバーナンキFRB議長が「緊張が高まれば行動する準備がある」としつつも、次回FOMCでの具体的な措置については言及しなかったことから、追加の金融緩和への期待が後退し、上げ幅を縮小した。
④	12日、国際通貨基金(IMF)が「円は幾分過大評価されている」「日銀は資産購入プログラム拡大を含め、さらなる金融緩和を実施し得る」などとの見解を示すと、円は一時売られた。
⑤	15日、日銀が金融政策維持を発表すると、一部の緩和期待の反動でドル/円は下落。ギリシャ再選挙を前にしたポジション調整の動きからユーロ/円が下げると、ドル/円は78.60円まで連れ安した。
⑥	20日、米シンクタンクが円に弱気のレポートを出したことで、円売りが優勢となった。なお、その後発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)の金融政策据え置きは市場予想通り、FOMCメンバーのゼロ金利の解除時期予想は2012年が3人、13年は3人、14年は7人、15年は6人となった。また、12年のGDP見通しは4月の2.4-2.9%から1.9-2.4%に引き下げた。その後バーナンキFRB議長は「FRBは更なる行動を取る用意がある」と今後の金融緩和に含みを残したが、ドル/円相場の反応は限られた。
⑦	25日、取引開始直後にストップを試す動きが先行し、4月27日以来の高値水準となる80.62円まで上昇した。しかしその後は利益確定のドル売り・円買いや本邦株安からくるクロスの下げを背景に失速した。
⑧	26日、消費増税を柱とする「社会保障と税の一体改革関連法案」が衆議院特別委員会で可決され、午後から本会議で討論・採決と報じられると、それを控えたポジション整理と見られるまとまった規模の円買い・ドル売りにより軟化。その後、上記法案は衆議院本会議で可決されたが、「54人以上離党したら民主党は衆議院で過半数割れ」という状況の中で、消費増税反対に回った議員が57名もいたことから、先行きの政局混迷を不安視した円売りが強まった。ただ、朝の高値付近では上値が抑えられた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## USD / JPY

## 今月のポイント

2012年6月のドル/円相場は77.64～80.62円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.9%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、月初の段階では円売り介入観測が広がるほどの円高水準だったが、米国の追加金融緩和への期待感が剥落するに連れてドルの買い戻しが進み、ドル/円は反発。月後半は欧州債務問題が市場の関心の中心になり、ユーロ主導の相場の中でドル/円相場は非常に動きにくい状態が続いたが、ところどころ国際通貨基金(IMF)が「円は過大評価されている」との見解を示したり、日本の政局について混迷不安が広がったことなど、円の独自材料を背景に値が動く場面も見られた。

目先は引き続き、ギリシャの支援条件緩和交渉やスペインの銀行支援の問題などもあり、欧州債務問題に主軸を置いた相場は続く公算で、米国の材料が重要視されない相場が続く限りドル/円は方向感の出にくい展開が続くと考えられる。ただ、次第に7月31日から8月1日にかけて行われるFOMCでの追加金融緩和に対する思惑を受けた取引も強まってくるだろう。緩和観測を高める様な材料が続けばドル安・円高、緩和観測が後退するようならドル高・円安傾向の動きになりそうだ。その最初の試金石となる米6月雇用統計の結果には注目したい。前回のFOMCでツイスト・オペの延長が決定されたばかりの状態、すぐに量的緩和第3弾(QE3)の導入観測が広がる……というのは、議論としてはかなり前のめり過ぎると言わざるを得ないが、各種指標結果や要人発言次第では期待だけが先行し、ドル売りが強まる可能性は否定できない。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 77.00～82.50円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/2(月)	6月米ISM製造業景況指数	7/16(月)	6月米小売売上高
7/5(木)	欧州中銀金融政策発表	7/17(火)	6月米消費者物価指数
	6月米ADP全国雇用者数		6月米鉱工業生産
	6月米ISM非製造業景況指数		米地区連銀経済報告(ページブック)
7/6(金)	6月米雇用統計	7/18(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨(6/14-15分)
7/9(月)	5月日経常収支		6月米住宅着工件数
	6月中国消費者物価指数	7/19(木)	7月米フィラデルフィア連銀景況指数
7/11(水)	5月米貿易収支	7/24(火)	7月米リッチモンド連銀製造業指数
	FOMC議事録(6/19-20分)	7/25(水)	6月日通関ベース貿易収支
7/12(木)	日銀金融政策決定会合(11日～発表)	7/26(木)	6月米耐久財受注
7/13(金)	第2半期中国GDP・速報値	7/27(金)	第2四半期米GDP・速報値
	7月米シガン大消費者信頼感指数・速報値	7/31(火)	7月米消費者信頼感指数
7/16(月)	7月米ニューヨーク連銀製造業景気指数		7月米シカゴ購買部協会景気指数

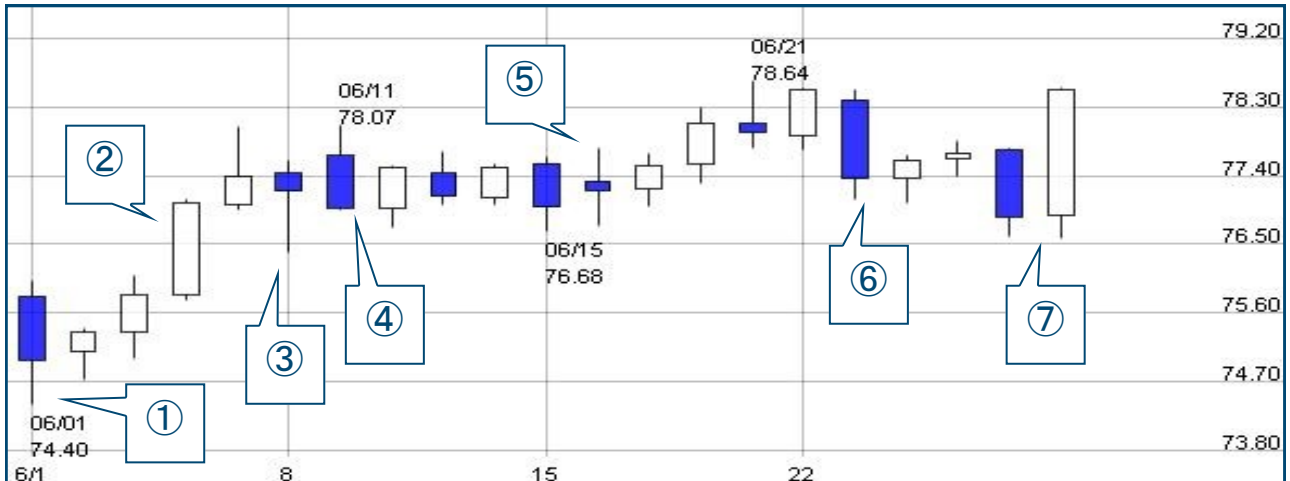
巻頭の特記事項を必ずお読みください。



# CAD/JPY

## カナダ/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	75.81円	78.64円	74.40円	78.52円



- ① 1日、米5月雇用統計は失業率が8.2%に悪化、非農業部門雇用者数は6.9万人増にとどまる弱い結果となり、同時刻に発表された加3月国内総生産(GDP)は前月比+0.1%と予想(+0.3%)を下回った。これらを受けてカナダ/円は74.40円まで急落したが、本邦通貨当局による円売り介入の噂でドル/円が急騰すると、カナダ/円も75円台に値を戻すなど荒い値動きとなった。
- ② 5日、安住財務相が「(G7緊急電話会議で)為替に関する合意事項の再確認を要請し、各国から異論はなかった」と発言すると介入警戒感からカナダ/円は上昇。さらに、カナダ中銀(BOC)が政策金利の据え置き(1.00%)と同時に発表した声明で「現在の大規模な金融刺激策を控えめながら一定程度解除する事が適切となる可能性」と、利上げを示唆する文言を踏襲すると、76.10円まで一段と上昇した。
- ③ 8日、格付け会社フィッチがスペインを3段階格下げしたことを受けてリスク回避ムードが強まる中、アジアから欧州市場にかけて株価が下落しカナダ/円は76.40円まで軟化した。しかしその後スペインが週末にも銀行支援のための金融措置を欧州連合(EU)に要請するとの観測が台頭すると、NYダウ平均が反発し、カナダ/円も77円台に値を戻した。なお、加5月雇用統計は失業率が予想通りの7.3%、雇用ネット変化は0.77万人増と予想(0.55万人増)をわずかに上回る結果となったが反応は限定的であった。
- ④ 11日、前週末にユーロ圏財務相会合が、スペインの金融機関に対して最大1000億ユーロの支援を決定した事を好感して取引開始からカナダ/円は78円台に上昇した。しかし欧州市場に入ると、スペインが欧州安定メカニズム(ESM)から融資を受けた場合、同国国債を保有する民間投資家が債権者として劣後化(返済順位が後位になる)するとの懸念が浮上したため同国10年債利回りが6.5%台まで上昇。NYダウ平均株価の下げもあってカナダ/円は77円を割り込んだ。
- ⑤ 18日、前日に行われたギリシャ再選挙の結果、緊縮派の政党による連立政権樹立の可能性が高まった事を受けてカナダ/円は77.76円まで上昇した。しかし、欧州市場に入りスペインの銀行の融資に占める不良債権比率が上昇した事をきっかけに同国10年債利回りが「危険水域」とされる7%台に再び上昇すると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は76.75円まで下落した。
- ⑥ 25日、日経平均株価や欧州株の軟調推移を背景にカナダ/円はじりじりと下落。その後、28-29日に開催されるEU首脳会議について、独報道官が「メルケル首相はEU関係者がユーロ債務危機の解決に向けて『安易な』対策の導入を期待している点に懸念を示している」と発言すると、ユーロ/円の下げが主導する形でカナダ/円は77.08円まで下落した。
- ⑦ 29日、EU首脳会議(1日目終了後)で、欧州救済基金を通じた銀行への直接的な資本注入や国債買入れについて合意が成立した事を好感してアジア、欧州、米国と株高が連鎖。原油価格も大幅に上昇するなど、リスク選好ムードが広がる中、カナダ/円は78.54円まで上昇した。

※ 巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今月のポイント

6月のカナダ/円相場は74.40円～78.64円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.6%の上昇(カナダドル高・円安)となった。カナダ中銀による利上げに前向きなややタカ派の声明、ギリシャの再選挙で緊縮派が勝利、欧州連合(EU)首脳が短期的な危機対応策(救済基金による銀行への直接資本注入や国債買い入れ)に合意した事などが、リスク回避ムードを緩和させた格好だ。しかし、6月のカナダ/円は5月の下げ幅の約半分を戻したに過ぎず、7月もリスク選好ムードが継続すれば一段高の余地はありそうだ。

欧州情勢に関しては、スペインの銀行支援の条件が緩和された事で、同国国債利回りがどこまで低下するかが注目されよう。また、欧州安定メカニズム(ESM)による問題国の国債購入に関する詳細な協議が行われると見られる9日のユーロ圏財務相会議が注目される。その他、6日の米雇用統計、13日の中国の一連の経済指標(GDPや鉱工業生産など)などから、世界的な景気減速懸念を払拭できるかどうか、株価や資源価格を通じてカナダ/円相場に大きな影響を与えるだろう。また、カナダ中銀(BOC)が17日に発表する声明も引き続き注目される。BOCは2会合続けて「現在の大規模な金融刺激策を控えめながら一定程度解除する事が適切となる可能性」という利上げを示唆する文言を用いており、今回もこれを踏襲すれば、年内の利上げ観測が高まる事になりそうだ(現状では来年1-3月の利上げを見込む声が多い)。(神田)

(予想レンジ:75.50～82.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/2(月)	日銀短観	7/11(水)	米FOMC議事録(6月19・20日分)
	6月米ISM製造業景況指数	7/12(木)	日銀金融政策決定会合(11日～)
7/5(木)	6月米ADP全国雇用者数	7/13(金)	第2四半期中国GDP
	6月米ISM非製造業景況指数	7/16(月)	6月米小売売上高
7/6(金)	6月加雇用統計	7/17(火)	加中銀政策金利発表
	5月加住宅建設許可	7/18(水)	6月米住宅着工件数
	6月米雇用統計		加中銀マネタリーレポート
	6月加Ivey購買部協会指数	7/20(金)	6月加消費者物価指数
7/9(月)	6月中国消費者物価指数	7/24(火)	5月加小売売上高
	ユーロ圏財務相会合	7/25(水)	6月通関ベース貿易収支
7/10(火)	6月中国貿易収支	7/27(金)	第2四半期米GDP・速報値
	6月加住宅着工件数	7/31(火)	5月加GDP
	EU財務相理事会		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。